

M.シロンヴァルのモチーフ索引における報酬／懲罰体系のネットワーク構造

Structure du réseau du système *récompense/châtiment*

dans un index des motifs par Margaret Sironval

小田淳一

(東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所)

M.シロンヴァルのモチーフ索引 (Margaret Sironval: *Esquisse d'un Index des motifs dans les Mille et Une Nuits*, Mémoire de l'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, préparé sous la direction de : M. Claude Brémont, septembre 1984) は, V. プロップの流れを汲む C. ブレモン の構造主義的物語分析モデルを『千一夜物語』に適用し, 功績 *mérite*／失態 *démérite*, 報奨 *récompense*／懲罰 *châtiment* という2種の二項体系に基づいてモチーフを分類・索引化したものである。本報告はこのうち, 報奨／懲罰体系の索引をデータとして, 登場人物間の関係をネットワーク構造で表すことによって, 物語分析のための新たなアプローチ方法を提示することを試みる。ここで本報告が依拠する概念は, 人や組織の構造をネットワークとして捉える社会的ネットワーク (*Réseau social*) であり, そこでは, 或る集団を構成するメンバー間の関係 (*interactions parmi des membres*) が, 数学のグラフ理論 (*théorie des graphes*) に基づき, 2つ以上の点 (ノード *sommet*) と, それらの関係 *lien* を示す線 (エッジ *arête*) によってネットワークとして表される。つまり, ひとつの物語に登場する人物群を「或る集団」と見做すことによって, それらの登場人物間の関係 (ここでは報奨／懲罰) をネットワークとしてグラフ化することが可能となる。本報告では, 社会的ネットワークの分野でよく用いられているツールの UCINET によって, 幾つかの物語を試験的に処理した結果, 登場人物間の関係がより明確に可視化されることが明らかになり, 少なくとも報奨／懲罰のような二項的關係性を物語間で比較する際に, 社会的ネットワークは有用な概念装置になり得ると言えよう。また, ネットワーク構造における「活性 *activité*」指標としての「中心性」概念のひとつである次数中心性 *centralité de degré* を, 幾つかの物語で計算した結果, 物語の「主人公」が中心性を有することが計量的にも追認された。ブレモンの物語分析モデルは元来, 計量的な分析手法と親和性を有しており, 今後, より複雑な登場人物関係の構造を持つ物語の分析に際しても, 社会的ネットワークの他の計算モデルを採用することによって, 計量的な分析が可能になるものと思われる。